

令和7年度瀬戸内市商工会景況調査報告書

1. 調査の内容

- (1) 調査対象企業 20社
- (2) 調査回数 4回（四半期ごと）
- (3) 調査の内容 業況（DI）、経営上の問題、設備投資、業種別動向

DI：景況の動向を示す指標。「良いと判断した企業の回答割合－悪いと判断した企業の回答割合」で計算している。

2. 業況調査の結果

(1) 業況DI

業況DI：業況が「良い」と判断した企業から「悪い」と判断した回答割合を差し引いた値としている。

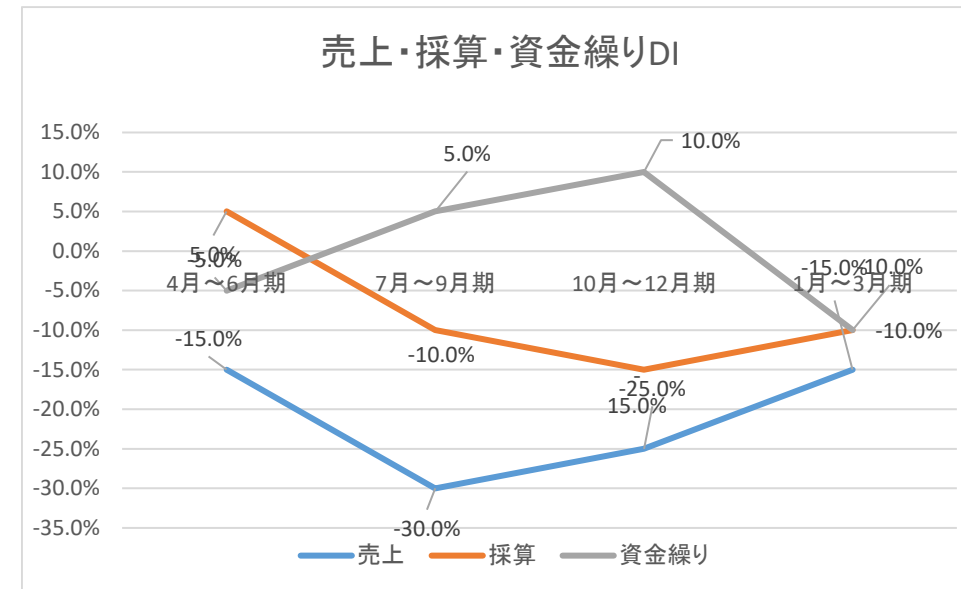
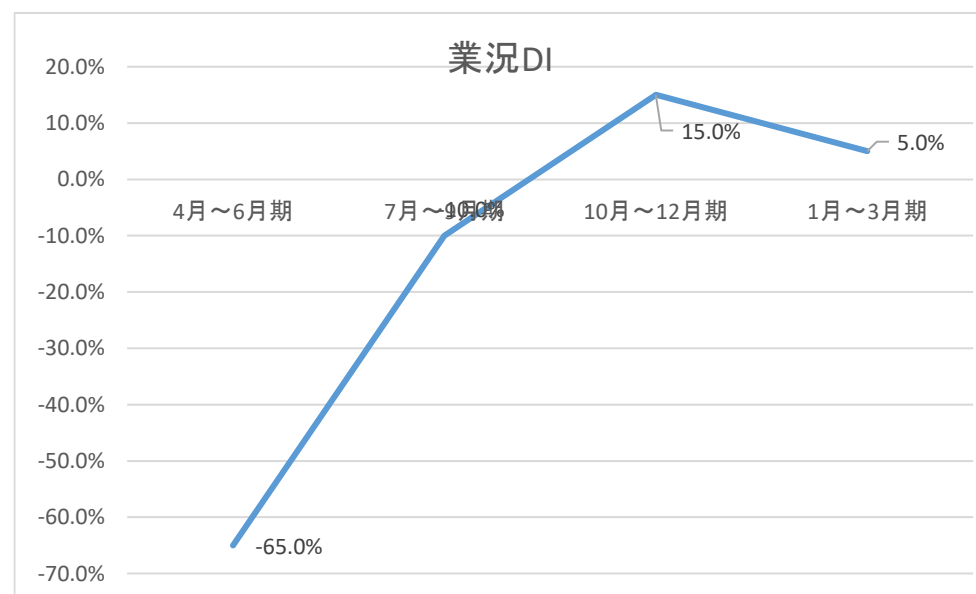
総評：令和5年度第4期から業況が悪いとの声が増えており、令和6年度も景況感が悪いとのコメントが引き続き多かった。また全業種で「賃上げによる経費増」「物価高」「人材不足」の声が年間を通じ多く、先行きが不透明な状況が長期間に渡り続く懸念がある。

(2) 売上・採算・資金繰りDI

売上DI：「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている。

採算DI：「好転」と判断した企業の回答割合から「悪化」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている。

資金繰りDI：「好転」と判断した企業の回答割合から「悪化」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている。



総評：第2期（7月～9月期）までは売上と採算は右肩上がり推移したが、物価高や買い控えなどの影響を懸念する声が増え、令和6年度も景況感が悪いとのコメントが引き続き多かった。また全業種で「賃上げによる経費増」「物価高」「人材不足」の声が年間を通じ多く、先行きが不透明な状況が長期間に渡り続く懸念がある。

3. 設備投資の動向

令和7年度も前年度同様、工場や建物、OA機器への投資をされたとの回答が多くなった。なお、OA機器についてはWindows10の保守終了の影響が大きいと思われる。また、令和8年度に向けて土地、工場建物、生産設備への投資を計画しているとの回答があり、設備投資に関し前向きな回答が多くなっている。

4. 経営上の課題について

第1期～第4期の調査結果を見ると、1位「人件費の増加」に対する回答が19件と昨年同様多い。これは、岡山県の最低賃金が65円増となったことが要因と思われる。また、製品ニーズの変化への対応や生産設備の過剰など、製造業を取り巻く環境の変化と厳しさに対する声が多くなった。

5. 業種別動向について

(1) 製造業

■取引件数

取引件数が「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている。

総評：製造業者の中でも景況感が良い事業所と悪い事業所との差があり、先行きが良いとの判断をされているコメントもあれば、不透明で不安であるとのコメントも多かった。

■納期

「短期納期」（循環が早い）と判断した企業の回答割合から「長期納期」（循環が遅い）と判

断した企業の回答割合から差し引いた値としている。

総評：不変との回答が多い。

	取引件数			納期		
	前年同期比	前期比	来期	前年同期比	前期比	来期
2025年4月～6月期	60.0%	40.0%	80.0%	-20.0%	-20.0%	20.0%
2025年7月～9月期	60.0%	40.0%	60.0%	0.0%	0.0%	-20.0%
2025年10月～12月期	40.0%	40.0%	40.0%	0.0%	0.0%	-20.0%
2026年1月～3月期	75.0%	60.0%	80.0%	-20.0%	-20.0%	-20.0%

(2) 建設業

■公共工事受注

公共工事の受注が「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている。

総評：年間を通じてマイナス傾向が続いており、厳しい状況との回答が多い。

■民間工事受注

民間工事の受注が「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている。

総評：年間を通じ不安定な状況が続いている。

	公共工事受注			民間工事受注		
	前年同期比	前期比	来期	前年同期比	前期比	来期
2025年4月～6月期	-40.0%	-20.0%	-20.0%	-60.0%	-40.0%	-40.0%
2025年7月～9月期	-25.0%	-25.0%	0.0%	-50.0%	-50.0%	0.0%
2025年10月～12月期	-25.0%	25.0%	25.0%	-75.0%	25.0%	-25.0%
2026年1月～3月期	0.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%

(3) 小売業

■顧客流出

顧客流出が「減少」と判断した企業の回答割合から「増加」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としてる。

総評：物価高による買い控えなどを感じるとのコメントが昨年同様、多く寄せられており、今後の先行きは厳しいとの回答が多い。また、仕入高のコメントも多かった。

■キャッシュレス決済導入状況

キャッシュレス決済導入を「導入」と判断した企業の回答割合から「廃止」と判断した企業の回答割合から差し引いた値としている。

総評：一貫してプラス水準にあります。

■キャッシュレス決済利用状況

キャッシュレス決済利用を「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合から差し引いた値としている。

総評：コロナ過で進んだキャッシュレスでの支払いが定着している。

	顧客流出			キャッシュレス決済			キャッシュレス決済利用状況		
	前年同期比	前期比	来期	前年同期比	前期比	来期	前年同期比	前期比	来期
2025年4月～6月期	-25.0%	-50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
2025年7月～9月期	25.0%	50.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%	66.7%	66.7%
2025年10月～12月期	0.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	75.0%	75.0%	75.0%
2026年1月～3月期	25.0%	25.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	66.7%

(4) サービス業

■市外利用者

市外利用者が「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合を差し引いた値としている

総評：原材料高や買い控えなどのコメントが多く寄せられており、来期以降、市外からの利用者が減少し、難しい経営になるのではないかと。また、猛暑による影響で来店客数にも影響があったとのコメントもあった。

■キャッシュレス決済導入状況

キャッシュレス決済導入を「導入」と判断した企業の回答割合から「廃止」と判断した企業の回答割合から差し引いた値としている。

総評：昨年まではキャッシュレス決済を利用する顧客が増えているとの回答が多かったが、利用が定着たことが伺える状況である。

■キャッシュレス決済利用状況

キャッシュレス決済利用を「増加」と判断した企業の回答割合から「減少」と判断した企業の回答割合から差し引いた値としている。

総評：導入していない店舗もあるが、利用客数については大きな増減はなく、キャッシュレス化が生活に浸透していると言える。なお、第3期～第4期の市外利用者が増加した原因は、年末年始の長期連休の影響があると考えられる。

	市外利用者			キャッシュレス決済			キャッシュレス決済利用状況		
	前年同期比	前期比	来期	前年同期比	前期比	来期	前年同期比	前期比	来期
2025年4月～6月期	16.7%	33.3%	0.0%	66.7%	66.7%	66.7%	60.0%	60.0%	75.0%
2025年7月～9月期	19.0%	16.7%	0.0%	66.7%	66.7%	57.1%	60.0%	60.0%	75.0%
2025年10月～12月期	50.0%	50.0%	50.0%	66.7%	66.7%	66.7%	60.0%	25.0%	25.0%
2026年1月～3月期	33.3%	0.0%	16.7%	66.7%	66.7%	66.7%	25.0%	25.0%	25.0%